

## 千歳の数え歌（手毬歌）

広い千歳は南より、北までおよそ一里ある。

古いお寺は国分寺、社は丹波の一宮。

見れば見るほど気も晴れて、ながめはおおい大堰の川流れ。

読んだり書いたり学問を、修める千歳の小学校。

いつも変わらず空高く、雲にそびえる千年山。

昔の人とて今もなお、その名をつたえる年山翁。ねんざんおう

七谷川はうら山の、谷川流れて水清し。

山城國は東にて、西は馬路と河原尻で。

この村さかいのなお北は、旭で南は保津村。

としどし栄えるこの村は、道も開けて便利よし。

「明治三十五年頃、当時千歳尋常小学校に初代の校長として奉職していた笠原順氏が、千歳の村の様子を十の歌章の中に読みこんだ数え歌を作った。語呂もよく歌い易いこともあってか、広く郡内に広まっていった。」（ふるさと千歳 昭和六十二年発行 より）

追記 十の歌唱 頭詞が ひ・ふ・み・よ・いつ・む・なな・や・ここ・とう